



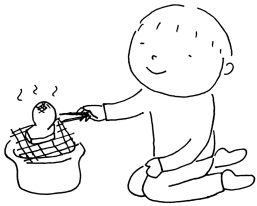
むぎの郷 January 2016 つうしん

発行/麦の郷情報管理委員会
〒640-8301 和歌山市岩橋643
TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
http://www.muginosato.jp

“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、
住民の手によって育てられる

ソーシャルファームピネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/
麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所
/はぐるま共同作業所 和の杜/はぐるま共同作業所 ラ・テール/
けいじん舎/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター「つれもて」
/ホームヘルプ麦の郷/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の
川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/障害児者サポ
ートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室/麦の
郷高齢者地域生活支援センター/ソーシャルファームもぎたて/Po-zzk
/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

おぼろけふとろ 賀正 謹賀新年



くろしお作業所 「書初め」



紀の川生活支援センター 「初詣」 1.5(火)



第二こじか園 「竈山神社」 1.4(月)

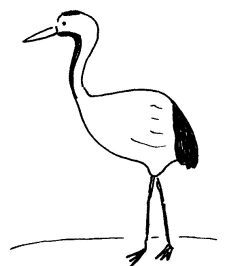
私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。





40周年をむかえる麦の郷



社会福祉法人
一麦会・麦の郷
理事長 田中 秀樹

新しい年を迎えるにあたって、これまでお世話になったみなさまに心よりお礼申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

1977年3月無認可共同作業所として出発した麦の郷は、今年40周年を迎えます。40周年をどのようにむかえるかを企画する実行委員会が準備をすすめています。無認可共同作業所から認可施設へと踏み出し、子どもから高齢者の問題に直面して多くの方々の支援を受けて事業をすすめてきました。それぞれの事業が年齢を重ね地域の障害者福祉に少しでも貢献できるように努力してきました。

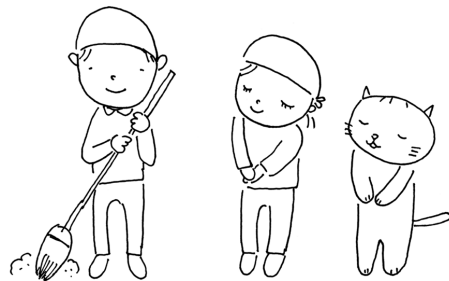
しかし、今すすめていることが本当に役に立っているのか、「誰のために…」を見失ってはいないだろうか、将来に批判されるものになっていないかを問い直す40周年にしていきたいと思います。1年間を通じて学習会や行事・

企画に取り組みを行います。ぜひ多くのみなさんの参加を得て麦の郷のこれからは検証していきたいと考えています。

その検証をすすめるにあたって「権利」「平和」についての視点を重視して

いきたいと思います。私たちがめざすものとしての指針として「障害者権利条約」があります。日本政府はこれを批准し国内法の整備に努力しています。この条約は憲法と一般法の間にあるありきわめて重要な国際的な約束です。「同世代の市民と同じ権利の保障」を謳った障害者権利条約はごく当たり前のことの実現を目指しています。障害者権利条約の内容を学び、実践し広げていくことが私たちの役割です。

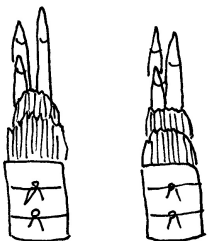
昨年末にNHKハートネットTVで「戦争と障害者」が報道されました。第二次世界大戦時に行われたドイツでのユダヤ人が600万人以



上も強制収容所などで虐殺されたのは知られていますが、その前に「予行演習」のように主に精神障害者、知的障害者の20万人以上が殺害されました。この事実は最近になって明らかになってきましたが、信頼する医師たちによって命の選別がおこなわれました。こうした障害者への差別は、日本では「ごくつぶし」として排除・差別され精神病院などで多くの人が餓死しました。

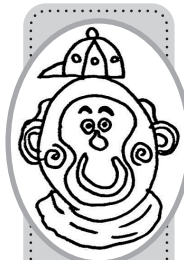
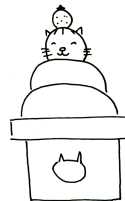
戦争は最大の人権侵害であり、今世界の紛争地で見られるように破壊でしかありません。多くの障害者が生み出され、真っ先に排除されるのが障害者です。戦争は障害者権利条約を世界各国が批准した流れと真っ向から対立するものです。「平和」でこそ障害者の「権利」がまもられ基礎となるものです。

麦の郷は「平和」「権利」を底流にしてこれからの事業、運動を多くの人と手をつなぎすすめていきます。今後とも一緒に歩んでいただけることお願ひ申し上げます。



麦の郷の年男・年女

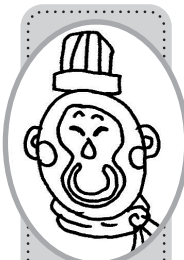
今年の抱負



POINZKK

奥野 亮平

ポズック楽団での自分の技をもっと増やして、みんなの良さを引き出せたらいいなあと思う。これまででは、霊長類以下科のゴリラにあごがれていましたが、今年はサルの俊敏性を身につけようかな。



POINZKK

中村 大樹

メイキングやりたい。
ウルトラマンゼロ THE MOVE 超決戦口ベリアル銀河帝国やりたいです。



POINZKK

山下 圭美

注意力を身につけ、ケガに気を付ける。よく考えて行動する。



むぎブース

岩本 典子

私は、今年で60才になりました。

この一年元気ががんばりたいと、おもいます。むぎブースには楽しい仲間が、たくさんいます。その仲間と仲良くしていきたいと思えます。そして「グループホーム」の「こ」にもゆかいな仲間がいます。みんなとたのしくゆかいに過ごしたいと思えます。



むぎブース

島本 由美

年賀状を買って初めて年女になるという事を知りました。

去年は、病気やケガが多かったので、今年は健康に気を付けて、頑張りたいと思います。又、せっかく年女になるので、いい年のとり方をしたいと思います。みんなから、あんな年のとり方をしたいと思われるような人になりたいと思います。よい年になりますように。



むぎブース

則岡 佳子

ずっと、うどん屋「むぎ太」でお仕事をがんばっていただけ、一昨年から、むぎブース（三沢町）にかわって、老人ホーム「わかば」のそつじの仕事をがんばっています。

今年、ちゃんと病院に通って、血圧がなあって元気にすごしています。仲よしのくさしおの森田くんといっしょいでかけたいです。



麦の郷管理者研修会

コミュニケーションをやわらかくして コミュニケーション力を 高めよう！

昨年12月3日麦の郷教育研修委員会主催による管理者研修会がビッグ愛にて開催されました。

今回のテーマは「コミュニケーションをやわらかくしてコミュニケーション力を高めよう！」ということ。アフタフバーバンの須貝京子さんを講師にお招きし「コミュニケーション手法のノウハウを楽しく教えていただきました。

さてその楽しく「コミュニケーション手法を教えてください」の講師の須貝さんが所属するアフタフバーバンとは？「広く子どもから大人に対して、あそび、表現活動を通じて、共に遊び合い、関わり合う中で、一人一人が自分らしく表現することを目指し、豊かな遊び環境および豊かな地域社会をつくり出すこと」を目的としたNPO法人で麦の郷の講師としては今回が2度目の来和とのことでした。

今回この研修会に集まったのは、きつと日ごろからコミュニケーションの難しさに頭を抱えることも多い麦の郷職員約15名、年齢は30代から60オーバーまで所属もバラバラ、男女比はちょうど半分半分といったところでしょうか。少し遅れて足を踏み込んだ会場ですすでに講師を中心に全員が輪になって「イエーイ!!」と大盛り上がりでした。「あそび、表現活動を通じて」の言葉通り「伝える・共感する・集まる」

といった集団でのアイスブレイキング的なコミュニケーション手法に始まり、どんどんその表現の世界に引き込まれていく感覚はさすがコミュニケーションのプロフェッショナルだと須貝講師の巧みな話術に学ぶべきところが本当にたくさんありました。

新聞紙一枚で子どもはもちろん大人も遊べるゲームや目で見えぬ絵を相手に言葉のみで伝えてもう一度絵にしてみようなど、気がつくと言つ間の1時間半の研修会。額にうっすらと汗がにじみ、なにかしら心地よい疲労感さえ感じられる時間を参加された方たちと過ごすことができました。

「コミュニケーション、ひとに物事を伝えることの難しさを日々感じて過ごしている方がほとんどなんじゃないでしょうか。

ホント思います。こんなに楽しく伝えるコミュニケーションばかりだといいいのにねえ。」

(大中)

第15弾

障害者週間 広がれネットワーク

「障害者週間 広がるネットワーク」は那賀圏域の障害者福祉施設・家族・当事者・地域の人たちが集まり「障害のある人が地域で豊かな生活ができる社会を実現するため」



に毎年イベントを取り組んでおり、みんなの力で無事15回目を終えることができ安堵しています。

毎年企画している

広がれアート、福祉施設職員研修会や講演会に加え「またき亭いっばいさんの落語&座談会」が開催されました。家族教室では、高森信子先生を迎え当事者家族の思いを受け止めていただきました。毎年講演に来て



いただき、1年間のパワーをもらっているという家族からは、ぜひとも来年も来ていただきたいという要望を多数いただきました。また自身も精神障害の当事者である「またき亭いっばいさん」に、デイケアのエピソードや幻聴や妄想といった経験を交えて啓発落語を披露していただきました。一般社会において精神疾患への理解の重要性を、村上貴菜さんとの座談会で学びました。今回の広がれネットワークで初めて精神障害の講演に参加される方々も多数足を運んでいただき、精神障害についての啓発につながったと思います。

麦の郷に入り数ヶ月で広がれネットワーク事務局の担当者となり、どういったものか描けないまま場所や備品、資料等の調整や段取りに追われる日々が始まりました。何度も焦りや不安の波に飲み込まれそうになりながらも、持ち前の樂觀的な性格が功を奏し、自分に出来ること

祝 Po-zkk開所

2015年11月25日



Po-zkk

みなさまの多くのご協力・ご支援をいただ

をすればいいと覚悟を決めたのです。何度も実行委員で会議を重ね、方向性を確認していく過程で、やりがいを見出しました。しかし調整の段階で人の言葉、対応で傷つくことがあったり、反対に人の言葉で勇気づけてもらえたりと両方の思いを味わいました。常に人に対して思いやりを持ち対応していくことの重要性、人に伝えることの難しさを痛感した次第です。この「障害者週間 広がれネットワーク」を継続して取り組んでいくことに意義があり、この縁の輪が広がり、那賀圏域のさらなるネットワークが構築されます。一人では何も出来ませんが、一人ひとりが手をつないでいけば出来ることがあるのです。

一人ひとりの思いやりが障害のある人や生きづらい人にとって、暮らしやすい地域社会へと繋がっていきますよ(…。(桑山)

き、むぎ、ピース出張所ポングリ 図画耕作所が、就労継続支援B型 Po-zkk (ポブック) として生まれ変わり無事に開所式を迎えることが出来ました。

スフヒリ語で ゆっくりという

意味の「ポレポレ」と「ブック靴」を組み合わせて出来た言葉 (造語) Po-zkk (ポブック) には、「ゆっくりとその人に合わせたペースで歩もう」といった想いがこめられています。

開所式当日、ご臨席いただいた皆様へのお礼と感謝を込めた理事長のあいさつが終わると、カンカンカンと拍子木が会場に鳴り響き、手作りの舞台幕が開かれました。そして、Po-zkk 流の開所式の始まり、始まり。 「てんぐり山」という完全オリジナルの音楽紙芝居がスタートしました。声色を変え何人も役になり演じる仲間、音楽・効果音を奏でる仲間、淡々とナレーションを行う仲間、それぞれの得意なことを伸ばし補いながら創り上げるのがPo-zkk 流です。それぞれの歩みで、ここからからだの声に耳を傾けながら日々を過ごし、みんなの夢や想いをどこまでもふくらませて行きたいと思えます。Po-zkk は、「ひと×表現×まち×アート×描く×ちんどん×映像×縫つ×だるま×つくる×踊る×めぐる」をかけ合わせ、「ひと」と



「こころ」と「地域」を結びつけたいと思います。

そして、私たちは、余暇としての芸術・創作ではなく、「描く」「つくる」「踊る」「表現する」ことを仕事にする Total Work of Art Group を目指し、「豊かさを」を共に創りだす活動を繰り広げてゆきます。(野中)

開所式を終えて…仲間たちの感想

●施設も広くなり、作業スペースも広がった分、作業内容も広がっていくのではないかなと思う。そして、ひとりひとりが自分の道を通り走ったり、極めていくだろう。

山下 圭美さん

●(たくさん人がいて) 緊張した。(これから) がんばるよ。

坂上加奈子さん

●みんなが見てたからな緊張した。カーテン(幕引くの)をがんばった。おもしろかった。(Po-zkk になって) 本棚つくりました。

中村 大樹さん

●(紙芝居の) デンデ(太鼓) がんばった。

宮市 匠さん



行って参りました〜!

花の都大東京へ♪

ソーシャルファームピネル

今年にはソーシャルファームピネル20周年という事で、飛行機で東京に行ってきました。前日からドキドキ…6時半集合!起きられるか? (そっちのドキドキ?笑) 無事に間に合い、いざ東京!

飛行機から降りると、そのままディズニースーパースターに分かれての行動でしたが、とにかく人で一杯でした。何かに乗ったり見たりするのも1時間待ち…あっちが早いかこっちが早いか? 日常の色んなことも忘れて楽しく過ごすことが出来ました。

夕食はホテルのバイキングです。たくさんアトラクションに乗ったグループもあり楽しそうに話してくれました。夜はショーを見に行く人、昼間乗り足らずアトラクションにチャレンジする人、ホテルで飲む人などそれぞれ。後日写真で見ただけですが、男性の部屋では酒盛り、まくら投げ? をしており「修学旅行みたいで楽しそつやな」と何か嬉しかったです。

二日目は都内観



光でお台場・東京タワー・国会議事堂をバスから眺め、スカイツリーでは花の都大東京を見下ろしてやってきました(笑)。天候にも恵まれ、遠くまで良く見えて綺麗でした。みんなの楽しそうな笑い顔、感謝感謝です。そして、集合写真を撮り昼食を食へに浅草へ。

浅草もやっぱり人で一杯!人をかき分けかき分け、東京最後のイベント隅田川下りに。スカイツリーを横目にフジテレビやらなんやら…少し肌寒かったですですが歩いて歩いての二日間だったのでゆったりできました。

二日間の楽しかった色々な出来事を胸に、花の都大東京を後に機上の一行となりました。

また明日から何事に対しても一生懸命がんばりましょう!トラブルもなく帰ってこられて本当に良かったです。

それから、僭越ながら20周年おめでとうございます。ソーシャルファームピネルに携わって頂いた歴代の方々のご苦労、想像もつきませんがその皆様の一途な思いがあつての「今」をこれからもつなげていけたらと思っています。本当に疲れ様でした。(井口)

かくたん 喀痰吸引の研修について

2015年の春、くろしお作業所施設長より「喀痰吸引の研修ごつ?」と薦められました。

詳しく話を聴くと、うちの作業所の仲間です。喀痰吸引が必要になるかどうかわからない高

齢の方もいれば、誤嚥の危険性がある方もいる、そんな中で喀痰吸引の資格を取っておいしてほしい、とのこと。

その後しばらく考えて、目の前に救える命があるのなら救いたいという気持ちもあり、受けてみる事にしました。

それから5月28日から9月30日までの主に木曜日に研修を受けました。最初の研修内容は、人見知りである自分が1番苦手とする「グループワーク」でした。これからの研修全てがグループワークやったらどうしようと内心怯えながらも、なんとか無事に乗り切り、その後は、テキストや吸引モデルの人形を使用して講師の先生の話を聴き、小テストや喀痰吸引の実施手順を覚えたりして、いよいよ本試験の日がやってきました。

2日続けて、筆記試験と実施手順試験があり、先生の素晴らしい試験対策と、一緒に研修を受けた方々のおかげで、無事に合格することができました。

ですが、これで終わったわけではありません、まだ実地研修が3日あり、国保野上厚生病院様で、3日間、ご指導のもと研修をさせていただきますました。

最初は衝撃的で、ゲホゲホおせている方の口腔、鼻腔内にチューブを入れて吸引するのですが、これが自分にとってあまりに辛くて、やめようかなという考えも少し出しましたが、それでも吸引しないと助けられない、と気持ちを切り替え3日間が終わりました。

これで喀痰吸引の資格を取得となりますが、【取得してからがスタートである】と講師の先

生も言っていましたし自分自身も思うので、学んだことが無駄にならないように頑張っていきたいです。

最後に、お世話になった先生方、一緒に学んだ方々、研修を薦めてくださった施設長、研修受入れ先を提供していただきましたプレゼンス・メディカル様、ありがとうございました。

(鈴木)

事業紹介②

麦の郷 けいじん舎

けいじん舎は、冷凍コロッケの製造、法人内給食業務、県庁北別館1階のカレーとカフェのお店「natural mug(ナチュラル ムギ)」、カーメンテナンス工房(法人内車輛の管理業務)と4つの部門で構成された、障害のある人の働く就労継続支援事業A型事業所です。現在16名(男性10名・女性6名)の方が働いています。

冷凍コロッケの製造工場「そよかぜ食品」は、麦の郷から南へ約600m離れたところにあります。昨年末より、大手スーパーさんの牛すじコロッケの委託製造がはじまり早1年、よりよいコロッケ品質をめざして、この夏に製造機械をリース契約で導入しました。ここでは、障害のある人10名、職員4名が働いています。

給食事業は、法人内はぐるま共同作業所の厨房で約60食の昼食を調理しています。はぐるま共同作業所、ソーシャルファームピネルの人た

ちが、11時45分から交替で食事にきてくれます。和の杜さん、けいじん舎へは、配達してまます。障害のある人2名、職員3名が働いています。

県庁内本館のカレーとカフェのお店「natural mug(ナチュラル ムギ)」は、開店して1年。お昼時だけにお客様が集中し、とても忙しくなりますが、障害のある人3名と職員2名がローテーションで働いています。岩橋の「そよかぜ食品」で、熊野牛とあめ色玉ねぎなどの香味野菜、リンゴとバナナ、14種類のスパイスでカレーを1日ばかりで煮込んでいます。

カーメンテナンス工房は、2012年にスタートし、今年で3年目を迎えます。法人が所有する車輛は、80台を超えています。この車両の安全運行のための保守点検を担う部署を作り、障害のある人の働く場にしよと計画しました。オイル交換や、バッテリーの点検、タイヤのローテーション、洗車などです。今までに外部に払っていた費用の3分の2くらいの費用に抑えることで、法人全体では、大幅な経費節約につながります。また、定期的にメンテナンスをすることで、車両の寿命も延び安全に走行することができるといふ大きなメリットがあり、なおかつ、外部に支払っていた費用が、障害のある人たちの賃金になるという考えです。現在この部門で働いている方は、整備士の資格を持つておられる中途障害者の方です。

いろいろな仕事を始めてきたのは、たくさん賃金を払いたい、いろんな仕事で選択肢を広げ、障害のある人がその能力を発揮できる場がほしいという思いからです。けいじん舎では、

障害のある人たちと雇用契約を結び、最低賃金(731円)を支払っています。しかし、十分な仕事があるわけではなく、短時間労働(週20時間)の契約の人がほとんどです。平均賃金は、71000円です。フルタイム(40時間)の契約で社会保険(厚生年金、健康保険)に入っている人は、4人だけです。まだまだ、まだまだこのような仕事ですが、経済的自立をめざし、社会の中で少しでも役にたつような仕事で、誇りをもってほしいという理念のもと、いろいろと挑戦しています。また、高い賃金を支払う仕事は、その内容も魅力的なものになっていくと信じて取り組んでいます。

麦の郷も40周年を迎えようとしています。ご存じのように共同作業所作りが始まった運動は、障害のある人たちの生活を支援する様々な活動へとつながり、いくつもの事業ができています。けいじん舎でもグループホームや訪問看護ステーション、相談支援事業など、いろいろな支援に支えられて、何人もの人が働いています。そういった

支援が充実する中、私たちは、働く場づくりで専念できるようになっていることを改めて実感し、働く場のさらなる充実に努めなければと思っています。

(宮本)



第14回和歌山県作業所問題研究交流集会

前に進もう！

～ ころころが貧しくならないように
たいせつなものを見失わないように ～

- 9:30 開場・受付
10:00 開会式 主催者あいさつ 来賓あいさつ
10:15 全体講演 相談支援の歩みを振り返る。
そこにみえる地域の課題（仮題）山田博章氏
和歌山県相談支援体制整備アドバイザー
和歌山県地域生活支援協議会代表
（きのかわ福祉会）
12:00 昼食休憩
13:00 分科会
16:30 閉会

※詳しくはわされん会員事業所に配布予定の
開催要項（申込書つき）をご確認ください

日時：2016年2月20日(土)
場所：和歌山県情報交流センター ビッグU
〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町3353-9
電話 0739-26-4111
主催：和歌山県共同作業所連絡会（わされん）
参加費：一般2,000円 仲間100円 介助者500円
※弁当の注文は別途600円要ります
申込締切：2016年2月10日（水）

■分科会■

- 第1分科会 入門講座
第2分科会 制度の谷間に目をむける
第3分科会 自立を考える
第4分科会 尊厳と意思決定
第5分科会 職業倫理を考える
第6分科会 家族の想い・私たち事業所にできること
第7分科会 「はたらく」とは
第8分科会 相談支援
第9分科会 グループホームにおけるいろんな
「取り組み」等を考える
第10分科会 仲間の交流会

麦の郷40周年記念企画①

麦の郷はたつこの共同作業所から始まり、来年40年の節目に至ります。これまで長年に渡り、活動を続けてこられたのも多くの方々に支えられてきたからと改めて感じます。謹んで御礼申し上げます。現在、この40周年における様々な企画を考えるため、実行委員会をつくり多くのみなさまに喜んでいただける企画を検討しています。今回は、そのひとつとして40周年の記念商品につけ、40年を祝い、アピールできるシール（ロゴ・イラストなど）を幅広く公募したいと思っております。下記の内容をご確認いただき、ぜひみんなより親しまれる40周年記念シールを考えてください。

内容 麦の郷40周年記念シール（ロゴ・イラストなど） サイズ 5cm×5cm程度

資格 団体・個人は問いません

応募方法 ◎パソコンなどで作成したデータの場合

【メール】麦の郷印刷 長谷宛 mugip@zeus.eonet.ne.jp

◎手書きなど【郵送】〒649-6338 和歌山市府中 1167-1 麦の郷印刷 長谷宛

応募締切 2016年2月29日（月）必着

審査方法 麦の郷40周年記念商品開発部による厳選な審査により決定させていただきます

応募作品 応募された作品については返却いたしません ご了承ください

問い合わせ 麦の郷居住福祉事業所 武田まで 073-471-7789

※各麦の郷関連施設であれば手渡しも可

※FAXでは字体やデザインが潰れる可能性もあるため応募方法より外させていただきます

※採用作品につきましては、一切の権利を無償で譲渡いただくこと等が応募の条件とさせていただきます。ご了承ください。



助成ありがとうございました



麦の郷印刷

この度、共同募金様より点字プリンター整備事業として「平成26年度共同募金」の助成をいただきました。数年前より、印刷事業を行っている障害者施設だからこそ、視力障害を持た

れている方々への情報のバリアフリー化を目指し、点字印刷事業を行ってきました。この間、和歌山県の広報誌である『県民の友』や『県議会だより』点字版など、いろんな点字物の作成を行ってきました。今回の助成を頂いたことにより、作業が効率よく行えるようになりました。障害を持たれている方の作業への参加等、幅広い取り組みができるようになっていきました。今後多くの情報発信ができるよう取り組んでいきたいと考えています。ありがとうございました。（森貴）